



～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

5月(皐月)新しい生活に少しずつ慣れてきたころでしょうか。初めて集団生活に入った子供達は、初めての風邪や胃腸炎に罹っている子も多いと思います。これからまた色々な感染症をもらいますが、頑張っって乗り切っていきましょう！

～溶連菌感染症について～

昨年から溶連菌感染症が多い状態が続いています。溶連菌感染症はきわめてありふれた疾患であり、ほとんどの方は軽症です。しかし、一度罹っっても繰り返し罹っってしまう事があるのが難点です。色々調べてみますと、小児の5～10%が溶連菌を無症状で保菌しているというデータがあります。治療が不十分な場合には、中耳炎や副鼻腔炎、扁桃周囲膿瘍、丹毒など、より重症の感染症を起こすことがあります。7～10日間の抗生剤内服治療は大変かもしれませんが、除菌のために頑張っって飲み切りましょう。溶連菌感染症は出席停止となりますが、抗生剤をきちんと内服出来、24時間以上経過して、発熱が24時間以上無い場合には登園・登校できます。合併症を起こすことは稀ですが、発症から1～2週間後に腎炎やリウマチ熱を起こすことがあります。これは、溶連菌に対する免疫反応によって起こるものです。肉眼的にわかる血尿や、顔や体の浮腫み、関節痛、発熱などがみられた時には医療機関を受診しましょう。

～胃腸炎について～

胃腸炎は、嘔吐、下痢、食欲低下などの症状で始まります。原因ウイルスはたくさんありますが、ノロウイルス、アデノウイルス、ロタウイルスなどが有名です。感染力が強く、一人感染者が出るとあっという間に広がります。年長児であれば3～4日で改善する、よくあるお腹の風邪です。2歳以下の乳幼児では、腸が未熟なためにしばしば下痢が長びきます。乳児では腸粘膜が再生するまでに数週間かかることもあります。このため、一時的に乳糖不耐症になってしまうことがあります。このような場合には、下痢が改善するまでの間、乳糖除去ミルク(ノンラクト[®])や大豆乳(ボンラクト[®])などを使うことがあります。

～新型コロナウイルスについて～

新型コロナウイルスが感染症分類の五類になってから一年が過ぎました。小児では95%以上が軽症です。日本小児科学会では小児が発熱しても慌てないよう保護者に対し以下の情報を提供しています。

- ① 経口摂取(哺乳)出来、普通に眠れていれば、緊急で救急外来などを受診する必要は無く、翌日以降にかかりつけ医を受診して良い。
- ② 発熱に対しては水分摂取を促し、体温調節をこまめに行う。
- ③ 小児用の市販薬を含めた解熱剤を適宜使用して経過を診て良い※。
- ④ 経口摂取(哺乳)不良、尿量低下、末梢冷感(手足が冷たい)、顔色不良、呼吸状態の悪化、ぐったりしている、意識がはっきりしない、痙攣、異常行動、嘔吐を繰り返すなどの症状が一つでも当てはまれば、速やかに医療機関に連絡して相談する。
- ⑤ 判断に迷った場合は、「こども医療電話相談事業 (#8000)」や日本小児科学会による「**こどもの救急** <http://kodomo-aq.jp>」などから情報を得ることも可能である。

※小児に対する市販薬使用について

一般に、感冒薬は6歳以下は使用しないよう推奨されています。ただし、小児用に市販されている解熱剤(アセトアミノフェン)などは用法容量を守って使う事ができます。

表：4月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌	179
2	胃腸炎(ノロ2アデノ1ロタ1含む)	82
3	インフルエンザB型	25
4	新型コロナウイルス	14
4	RSウイルス	14
6	咽頭アデノウイルス	9
7	突発性発疹	6
8	とびひ(伝染性膿痂疹)	5
9	水ぼうそう	2
10	りんご病	1
10	おたふく風邪	1

あんず通信バックナンバーはクリニックホームページからご覧になれます。<https://www.ssn-clinic.net/index.html>

～あんずからのお知らせ～

★**空き状況は Web で**
しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。
ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセルをされる場合**
留守番電話で構いませんので**当日 8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★**ご予約の際の注意事項**
診察を受けた**病名**によって、なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

予防接種ニュース

令和6年4月より五種混合ワクチンの定期接種が始まりました。同時に、これまで13価だった小児肺炎球菌ワクチンが新たに15価のものが定期接種として導入されました。

